

ジャコッパラ Ⅸ

—— 平成9年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概要 ——
(諏訪市霧ヶ峰ジャコッパラ遺跡群遺跡分布予備調査6)

1998.3

諏訪市教育委員会

諏訪市埋蔵文化財調査報告第46集

ジャコッパラ Ⅸ

— 平成9年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概要 —

(諏訪市霧ヶ峰ジャコッパラ遺跡群遺跡分布予備調査6)

1998.3

諏訪市教育委員会

JAKOPPARA vol. IX

AN ARCHAEOLOGICAL SURVEY
ON JAKOPPARA SITES AT KIRIGAMINE
SUWA CITY, NAGANO PRIFECTURE, JAPAN

1 9 9 8 . 3 .

THE BOARD OF EDUCATION
OF SUWA CITY

例 言

1. 本書は、長野県諏訪市霧ヶ峰南麓地域の平成9年度遺跡分布予備調査概要報告書である。
本分布予備調査は平成9年度国庫・県費補助事業市内遺跡発掘調査事業の一部として行なわれたものである。また、長野県黒耀石原産地遺跡分布調査（諏訪市）を兼ねている。
2. 本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教育委員会の編成するジャコッパラ遺跡群調査団が調査を担当した
3. 現場における発掘調査は平成9年10月29日から11月26日まで実施した。報告書作成作業は平成10年1月から平成10年3月まで、諏訪市社会教育センターにおいて行なった。
4. 本文中の水糸レベルは標高の絶対値で示した。
5. 現場における記録と整理事業の分担は次のとおりである。
遺構等実測・・・青木正洋・田中 総・小松とよみ・原敏江・矢崎つな子
遺物水洗・注記作業・・・小松・原・矢崎・宮坂茂子・藤森敏幸
遺物実測及びトレース・・・田中
図面写真整理・遺構トレース・・・青木・田中
6. 編集・執筆は事務局及び田中が行なった。
7. 各試掘グリッドの平面及び土層断面図中の遺物はドットで示した。
8. 各試掘グリッドの土層断面図の方位は図中に示した。
9. 調査の諸記録は、諏訪市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査及び報告書作成に際し、調査・整理参加者の他に下記の方々はじめ多くの方々に御指導・御教示を得た。記して感謝申し上げる。（順不同・敬称略）
上桑原牧野農業共同組合・上桑原共有地組合・長野県教育委員会文化財保護課・黒耀石原産地遺跡調査指導委員会・宮坂 清・望月明彦

目 次

例 言

目 次

I 調査に至る経過

1. 霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過	1
2. 過去における調査	1
3. 平成9年度調査の概要	2
4. 調査組織	3
5. 調査日誌	3

II 位置と環境

1. ジャコッバラ遺跡群を取りまく環境	4
2. ジャコッバラ遺跡群と周辺遺跡群の概要	4

III 平成9年度遺跡分布予備調査の概要と成果

1. 平成9年度調査区の概要と基本土層について	9
2. K R E地区の調査	10
3. K R F地区の調査	12

IV 調査のまとめ

1. 検出された遺構・遺物及び遺跡内容について	15
-------------------------	----

写真図版

I 調査に至る経過

1. 霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過

霧ヶ峰高原周辺からは、火山性ガラスである黒耀石が多く産出される。黒耀石原産地の地元である諏訪地方各地でも、黒耀石製の石器類を多量に出土する遺跡が多く発見されており、これらの遺跡は、山麓部から諏訪湖盆にかけていくつかの遺跡群を構成している。しかし、これまで黒耀石露頭付近及びこれらを取りまく山麓部については、現況が山林・草原である事から、遺跡分布を把握することが困難であった。このような状況をふまえ、長野県教育委員会及び関係各市町村により「長野県黒耀石原産地遺跡分布調査」が計画され、各市町村による分布調査が進められる事となった。

諏訪市では、霧ヶ峰南麓一帯を覆うような形で大規模な開発計画がもちあがっており、遺跡の保護措置を協議するためにも、山麓部における遺跡の分布状況をなるべくすみやかに把握する必要があったため、文化庁及び長野県教育委員会の指導のもと、平成3年度から調査を開始した。

調査予定区域内は、ほとんどが草原か林地であり、表面採集による遺跡分布の確認は不可能であったため、試掘を伴う調査を行うこととした。地図及び現地踏査による地形読取から地点を選定し、掘り下げを行った。

2. 過去における調査

ジャコッパラ遺跡群に関するこれまでの調査の概要については、平成4～8年度の分布予備調査概報に記述してあるので、ここでは概略を記す。

平成3年度から開始された遺跡分布予備調査では、平成8年度までに、新たに18ヶ所の遺跡が発見されている。これらは相互に有機的な関連を有し、全体的に一つの遺跡群として捉えることができるため、「ジャコッパラ遺跡群」として位置付け、新発見の遺跡については「ジャコッパラNa○遺跡」として登録している。昨年度はジャコッパラNa20遺跡までを発見・登録したが、ほとんどが旧石器時代と縄文時代に属し、各時代の単独もしくは複合遺跡であることがわかっている（第1表）。

旧石器時代遺跡については、緊急発掘調査によって、ある程度の面積が調査できたものについては、基本的に黒耀石を材料とした石器生産遺跡であることがわかっており、その生産性の規模にも大小が認められる。特に規模の小さいものについては、短期的な露营地（キャンプ地）としての役割をうかがわせるものがある。帰属時期も台形様石器を伴うような、A T火山灰降灰以前の古い段階のものから、それ以降のナイフ形石器期のものと大きく分けられ、前者の遺跡が多く認められる。その他の遺跡についてはローム層中からの1点もしくは数点程度の単独出土例が多く、ツールを伴わない場合がほとんどであり、明確な時期判断ができないものがある。

縄文時代遺跡では、短期間に営まれた規模の小さな露营地（キャンプ地）としての性格を示すものが多い。縄文早期押型文段階・条痕文段階に帰属するものがほとんどであり、新しくとも縄文中期までが確認

されている。また、帰属時期は不明瞭ではあるが、狩猟関連施設である陥し穴状遺構が6カ所の遺跡で発見されており、縄文時代におけるジャコッパラ付近の土地利用の様相を示すものとして注意される。

3. 平成9年度調査の概要

平成9年度の調査は10月29日～11月27日の期間で行ない、霧ヶ峰南麓のKRE地区及びKRF地区の2カ所を調査対象区域とした（KRは霧ヶ峰の略）。調査にあたっては、現地踏査並びに地形図からの地形読み取りによって試掘坑の設定地点を決定し、各試掘坑とも2m×2mを基本に、状況に応じて1m×2m、1m×3mの試掘坑も設定した。掘り下げはすべて手掘りで行なった。遺構及び土層堆積状況確認のため、ローム上面から数10cmの深さまで掘り下げることが原則としたが、これについては遺物等の検出状況や、地山の状況に合わせて随時変更した。

各試掘坑では掘り下げ終了後土層堆積状況の記録等を行い、数ヶ所については分析資料取得のため土壌サンプリングを行なった。なお、過去の調査では、最後にタキオメーターによって位置を地図上におとすという作業を行っていたが、本年度は調査日数の関係で行なうことが出来ず、来年度の作業に繰り越すことにした。したがって、本概報では本年度の調査グリッド分布図は掲載していない。

なお、試掘分布調査ではグリッド番号を3ケタでナンバリングしたが、3ケタ目の“9”は平成9年度を表わしたものである。暫定的であるため、最終的には番号をつけ直す予定である。

なお、本年度は諸般の事情により調査期間及び人員が、前年並に確保できなかった。このため、両地区合わせて34カ所の試掘グリッドを設定、掘り下げを行なうにとどまった。また、一般道路から調査地まで距離があり、移動を徒歩に頼らなければならないこともあって、調査は困難を伴うことが多かった。しかし、各調査対象地区で未知の遺跡を発見するという重要な成果が上がり、ジャコッパラ遺跡群研究の上で有益なデータを得ることが出来た。

補助事業決定の経過（抄）

平成9年5月28日付け9 諏生学博第13号

平成9年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成9年7月3日付け9 諏生学博第14号

平成9年度文化財補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業（県費）

平成9年7月3日付け庁保伝第7号

平成9年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成9年7月14日付け長野県教育委員会教育長指令9 教文第2-11号

平成9年度文化財補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業（県費）

4. 調査組織

諏訪市遺跡調査団（平成9年度）

団長 吉田 守 （諏訪市教育委員会 教育長）
副団長 藤森富夫 （諏訪市教育委員会 教育次長）
宮坂光昭 （諏訪市文化財専門審議委員）
調査担当 青木正洋 （諏訪市教育委員会学芸員）
調査員 田中 総 （諏訪市教育委員会学芸員）
調査団員 （一般）小松とよみ・原 敏江・矢崎つな子・矢崎初敏・宮坂洋五
・増沢清久・宮坂茂子・阿部節子・相沢市江

（事務局）

事務局長 花岡潤吉 （生涯学習センター所長）
事務主幹 有賀義人 （諏訪市博物館長）
事務局員 五味裕史・青木正洋・田中 総（諏訪市博物館）

5. 調査日誌（抄）

10月29日 K R E 地区設定開始。
10月30日 機材搬入。K R E 地区より調査開始。
11月6日 K R E 913グリッドより、旧石器時代遺物が出土（ジャコッパラNo.21遺跡）。
11月10日 望月明彦先生来跡、指導。
11月14日 K R E 地区の調査終了。
11月17日 K R F 地区の調査開始。
11月20日 K R F 929グリッドより縄文早期押型文土器と石器類が出土（ジャコッパラNo.22遺跡）。
11月27日 K R F 地区の調査終了。機材撤収。

II 位置と環境

1. ジャコッパラ遺跡群をとりまく環境

霧ヶ峰は、標高1925mの車山から噴出した溶岩が、南方へ緩やかに傾斜した火山体（盾状火山）により形成される。標高1400～1700mにある草原地帯には、八島ヶ原、車山、踊場の三つの高層湿原が展開し、それらの湿原は国の天然記念物に指定されている。

このように草原と湿原からなる霧ヶ峰も、昭和の前半には、標高1400m以下まで、牧場や牧草地、植林地として入植され、現在は森林地帯となっている。通称ジャコッパラ（蛇行原）と呼ばれる付近でも、このような土地利用が頻繁になされていた。

ジャコッパラ遺跡群は、霧ヶ峰南麓の標高約1300m～1580mの山間部に位置している。諏訪盆地の平坦部とは標高差が約500m以上で、気温も年間を通じて8℃ほどの差がある。従って、旧石器時代の最も寒い時期にはかなり厳しい環境下にあったと考えられる。ただし、時代によってかなり気候の変動があったことがわかっており、昭和62年に行なわれたジャコッパラNo.1遺跡の調査では、約五千数百年前の縄文時代前期後半頃の陥し穴状遺構の中からススキ・ヨシの他にコナラ・クリ等やケンボナシなどの落葉広葉樹の植物遺体が見つかった。

ジャコッパラ遺跡群付近の地形は、溶岩台地とそれを南北に区切る谷によって幾つかのまとまりに分割することが可能であり、調査にあたっては谷などを境界としてA～E地区を設定した。それぞれの尾根は階段状に延びており、尾根筋の所々に独立丘状の小ピークが認められる。

なお、これまで霧ヶ峰南麓には数ヶ所の湿地が存在することがわかっている。

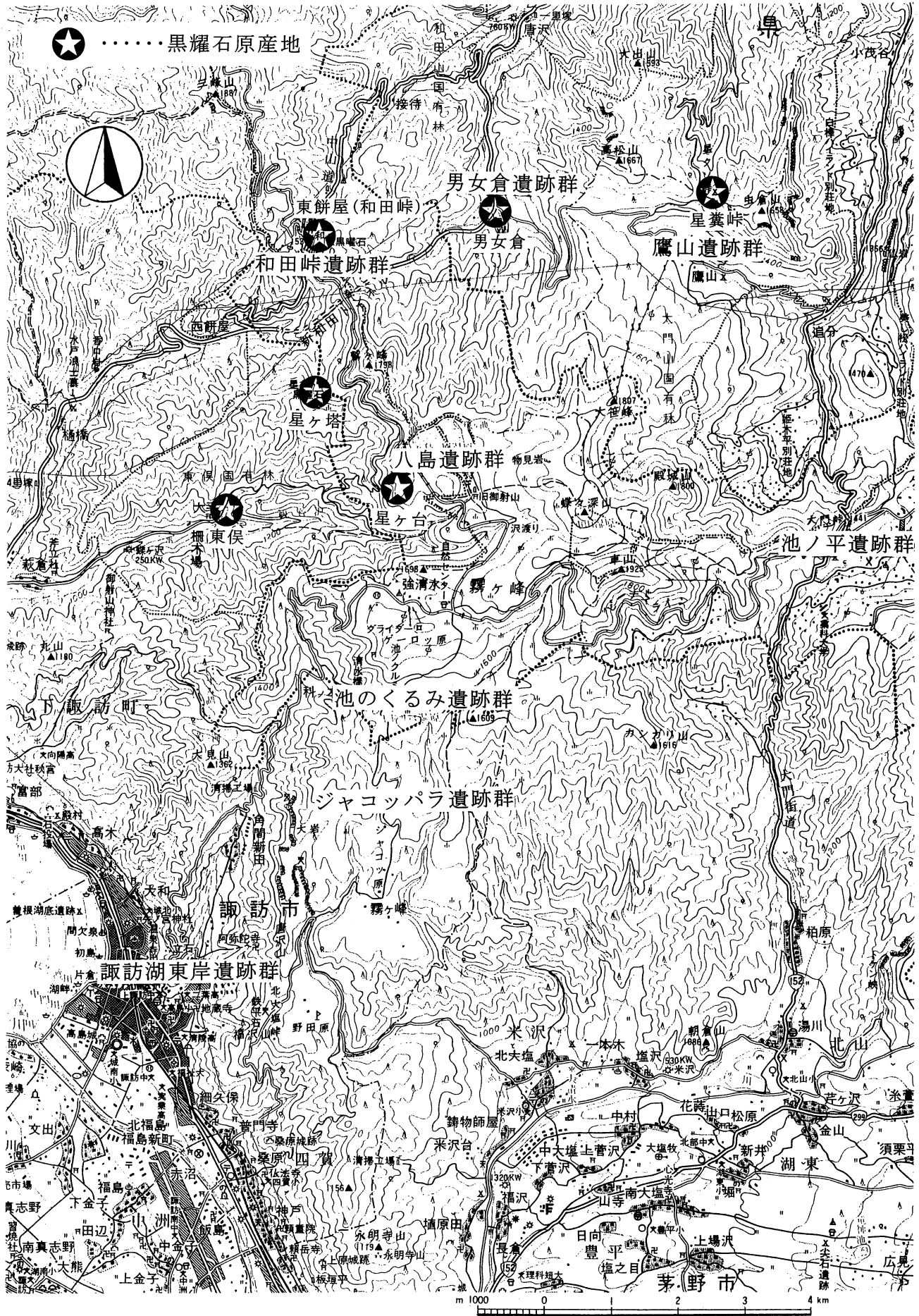
2. ジャコッパラ遺跡群と周辺遺跡群の概要

旧石器時代 霧ヶ峰の周辺では、火山活動の産物である黒耀石の産出地点が、多く見つかった（第1図）。遺跡は原産地直下に群在しており、このようなまとまりは遺跡群として、既にいくつか知られている（第2図）。

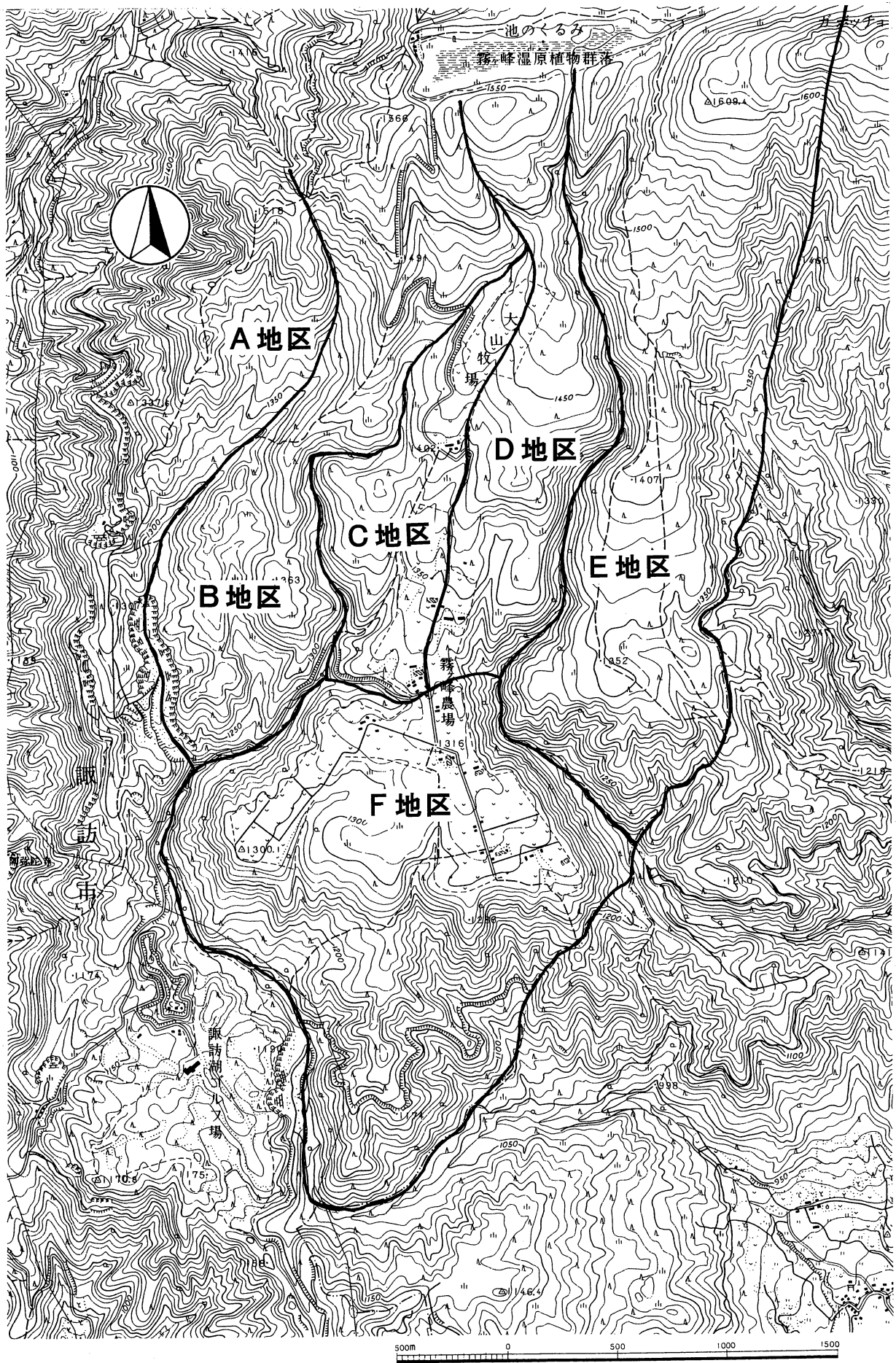
諏訪市域においては、八島遺跡群を除いて、黒耀石原産地直下に形成された遺跡群は確認されていない状況である。池のくろみ遺跡群や、今回の調査対象となるジャコッパラ遺跡群は、黒耀石の産出地点より、やや距離をおいて分布する遺跡群である。また、霧ヶ峰西麓となる諏訪湖東岸付近には諏訪湖東岸遺跡群があり、この場合は、原産地から10km近くも離れることとなる。

これらの遺跡群の分布状況は、黒耀石原産地の多様な姿を反映したものであり、その立地条件は、遺跡（群）の構造を理解する上で無視できないであろう。

縄文時代 縄文時代における霧ヶ峰一帯は、土地の利用が、キャンプ地や狩猟場に限定されるようである。その証拠として、狩猟場の跡地と思われる沢沿いの緩斜面からは、陥し穴状遺構が発見されている。ジャコッパラ遺跡群では、いくつかの遺跡で陥し穴状遺構が発見され、今後、分布調査の進展によっては、さらに多く検出されると予想できる狩猟場の形態の一つである。



第 1 図 ジャコッパラ遺跡群と周辺の旧石器時代遺跡群



第2図 調査区の区割り



第 3 図 平成 9 年度調査範囲と周辺の遺跡

地区	番号	遺跡名	所屬時期	市内番号	調査歴
地区外	1	細久保遺跡	縄文早・前期, 弥生中期	409	昭和25・26年一部発掘調査
C・D	2	霧ヶ峰農場遺跡	旧石器, 縄文前期, 中世	411	昭和54年、遺物採集により発見
	3	池のくるみA遺跡	旧石器, 縄文早・前・中期, 平安	412	
調査	4	池のくるみB遺跡	旧石器, 縄文早期	413	
地区外	5	池のくるみC遺跡	旧石器, 縄文早期	414	昭和42年、一部発掘調査
	6	池のくるみD遺跡	旧石器, 縄文早・前期, 平安	415	
C	7	ジャコツパラNo.1遺跡	旧石器, 縄文前期? (陥し穴)	418	昭和62年、一部発掘調査
B	8	ジャコツパラNo.2遺跡	旧石器	431	平成元年、遺物採集により発見
B	9	ジャコツパラNo.3遺跡	旧石器, 縄文?	432	平成3年、分布調査により発見
B	10	ジャコツパラNo.4遺跡	旧石器, 縄文早期(陥し穴)	433	平成3年、分布調査により発見
B	11	ジャコツパラNo.5遺跡	旧石器	434	平成3年、分布調査により発見
B	12	ジャコツパラNo.6遺跡	旧石器, 縄文? (陥し穴)	435	平成4年、分布調査により発見
D	13	ジャコツパラNo.7遺跡	縄文?	436	平成4年、分布調査により発見
D	14	ジャコツパラNo.8遺跡	旧石器, 縄文? (陥し穴)	437	平成4年、一部発掘調査
C	15	ジャコツパラNo.9遺跡	縄文早期	438	平成4年、分布調査により発見
C	16	ジャコツパラNo.10遺跡	縄文早・中期	439	平成4年、分布調査により発見
C	17	ジャコツパラNo.11遺跡	縄文早期(陥し穴)	440	平成4年、分布調査により発見
B	18	ジャコツパラNo.12遺跡	旧石器, 縄文	441	平成5年、一部発掘調査
D	19	ジャコツパラNo.13遺跡	縄文	442	平成6年、分布調査により発見
D	20	ジャコツパラNo.14遺跡	旧石器・縄文(陥し穴)	443	平成6年、分布調査により発見
D	21	ジャコツパラNo.15遺跡	縄文	444	平成7年、一部発掘調査
D	22	ジャコツパラNo.16遺跡	縄文?	445	平成7年、分布調査により発見
D	23	ジャコツパラNo.17遺跡	縄文?	446	平成7年、分布調査により発見
A	24	ジャコツパラNo.18遺跡	縄文?	447	平成8年、分布調査により発見
B	25	ジャコツパラNo.19遺跡	旧石器・縄文	448	平成8年、分布調査により発見
B	26	ジャコツパラNo.20遺跡	旧石器・縄文	449	平成8年、分布調査により発見
E	27	ジャコツパラNo.21遺跡	旧石器	450	平成9年、分布調査により発見
F	28	ジャコツパラNo.22遺跡	縄文早期	451	平成9年、分布調査により発見

(『諏訪市の遺跡』等をもとに作成)

第1表 周辺遺跡一覧表

Ⅲ 平成9年度遺跡分布予備調査の概要と成果

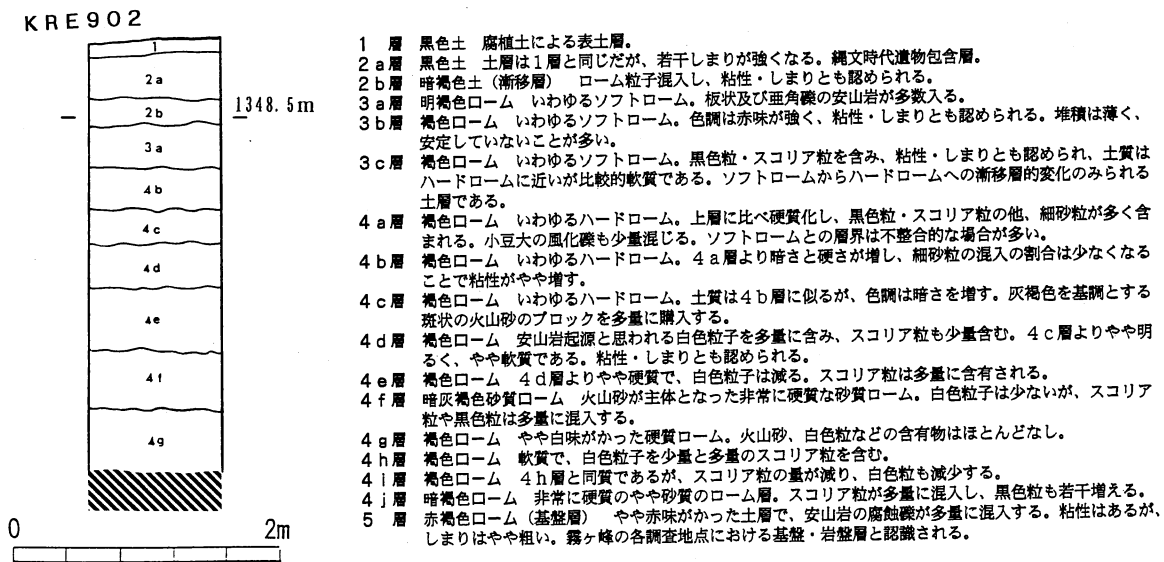
1. 平成9年度調査区の概要と基本土層について

平成9年度の調査は、KRE地区とKRF地区が対象範囲となり（第2図・第3図）、両地区は過去に分布調査の及んだことのない、未調査区域となる。また、両地区ともジャコッパラの周縁部にあたり、遺跡群の展開範囲をうらなう上でも重要な区域であった。

KRE地区は霧ヶ峰西南麓の平坦面のある尾根でも最も西側にあたり、八ヶ岳山麓側との接点にもなる。本調査区の傍らを通る檜沢川は、池のくろみ付近を水源とする小河川であり、下流は大規模な縄文遺跡が分布する茅野市米沢方面に及んでいる。旧石器時代から縄文時代にかけての、八ヶ岳山麓からジャコッパラ遺跡群をはじめとする霧ヶ峰への出入りには、こうした河川をたどるといふ移動方法が取られていた可能性が高く、ジャコッパラ遺跡群において新たに見つかっている遺跡の分布状況は、これを裏付けるものとして注意している。なお、今回の調査では、尾根の肩部付近を調査したが、旧石器時代の遺物出土地点が1カ所認められ、新発見の遺跡として登録した。

KRF地区については、ジャコッパラ遺跡群の調査対象範囲の南端にあたり、尾根部の末端には檜沢川同様、茅野市域に流れ出る横河川がある。今回の調査はKRF地区の中央付近の平坦部が対象となり、試掘の結果、縄文時代早期の遺物出土地点を1カ所確認し、これも新発見の遺跡として登録した。

KRE・KRF地区における土層堆積状況は、地区は異なるものの、ローム層中に山体基盤からの浮遊礫を含まない等、同様な堆積状況を示す傾向にあった。基本的な土層堆積のあり方は、第4図に示したとおりであり、深掘りを行なったKRE902グリッドのデータが基になっている。なお、同図に示した土層内



第4図 基本土層堆積図

容及び層名は、昨年度の調査より用いているジャコッパラ付近の基本土層注記と同じである。各試掘グリッドにおいては、ソフトロームとハードロームの境は整合的であり、ソフトローム直下、ハードローム上部の層序が一定していないことがある。これはソフトロームの堆積以前もしくは途中において、ハードローム上面が地滑りをおこした可能性を示していると考えられる。ローム中のクラックのあり方とともに考慮する必要がある。旧石器時代の遺物は、主に3 a層としたソフトロームを包含層としており、4層上面にくいこむ場合もある。縄文時代については、2 a～2 b層が遺物包含層となる。

2. K R E地区の調査

K R E地区は、本年度より調査を開始した地区である。調査対象区域は、標高1640mのカボッチヨ山から延びる広大な尾根が相当し、直下には檜沢川が流れている（第3図・第5図）。本年度の調査は、地元で「向原」と呼ぶ、標高約1440m～1325mの緩やかな傾斜を持つ、平坦な尾根上が対象となった。

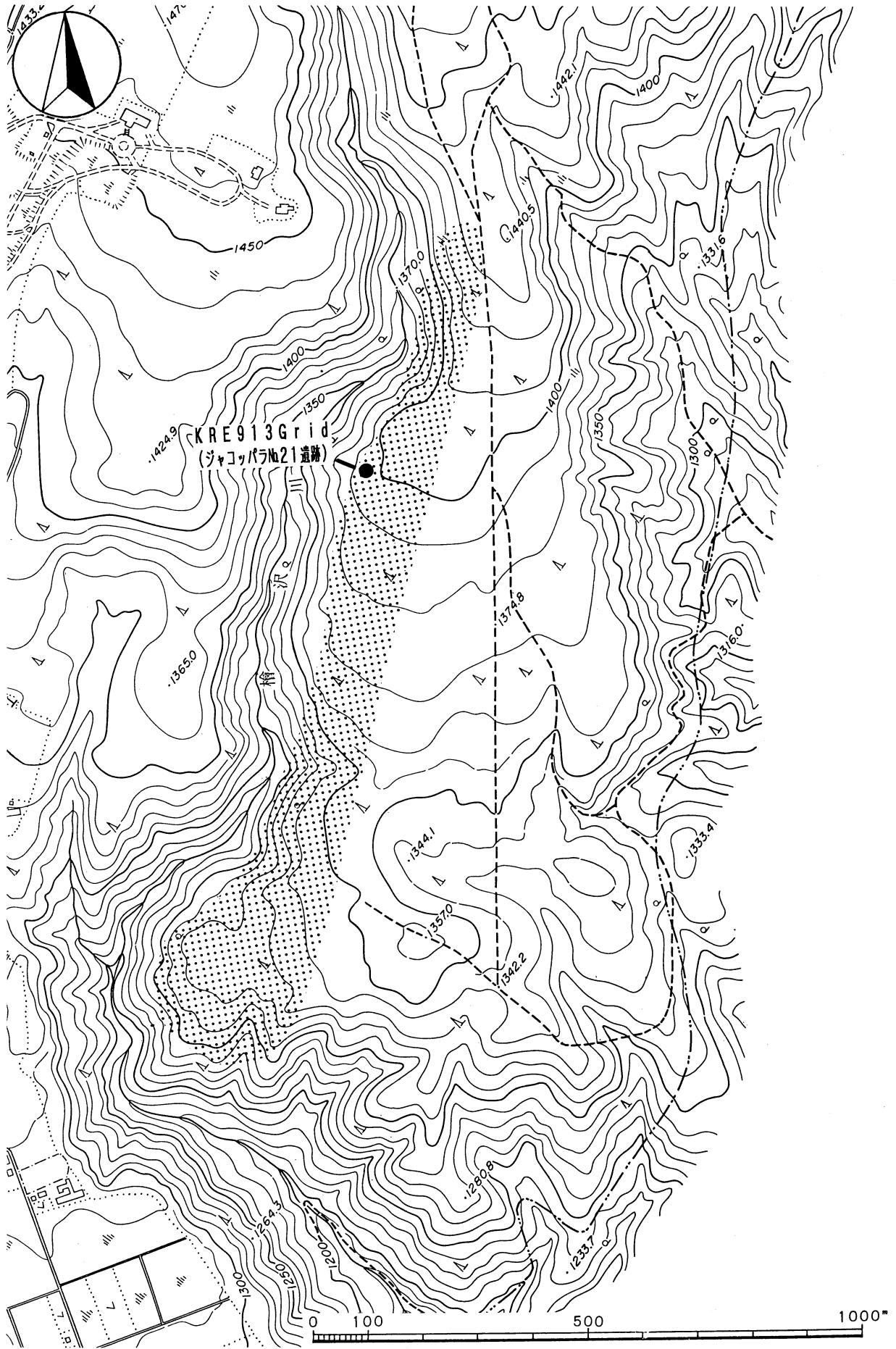
第5図に示した範囲（トーン部分）に2 m×2 mを基本とする試掘グリッド25カ所を設定し、掘り下げを行なった。調査の承諾を得ている土地の範囲の関係により、尾根の縁部分が主体とならざるを得なかった。また、この尾根付近は、過去には牧場として利用されていたため、土塁の構築が行なわれるなど、若干の地形改変が認められた。

調査対象範囲は、日当たりの良い南向きの緩斜面であり、直下には河川も流れるなど、ジャコッパラ遺跡群においては、比較的遺跡形成の条件が整っている地区であった。また河川をはさんだ対岸のD地区の尾根上には過去の調査で、旧石器時代から縄文時代に属するジャコッパラNo.13・No.14遺跡が発見されている（第3図）ことから、旧石器時代以降の遺跡の存在が期待される場所でもあった。特に調査地区内で、岬状に独立している小尾根部分は、そうした可能性の高い地点として注意された。なお、調査範囲内では、ローム層の堆積は概ね安定しており、山体基盤からの浮石は、全く認められなかった。

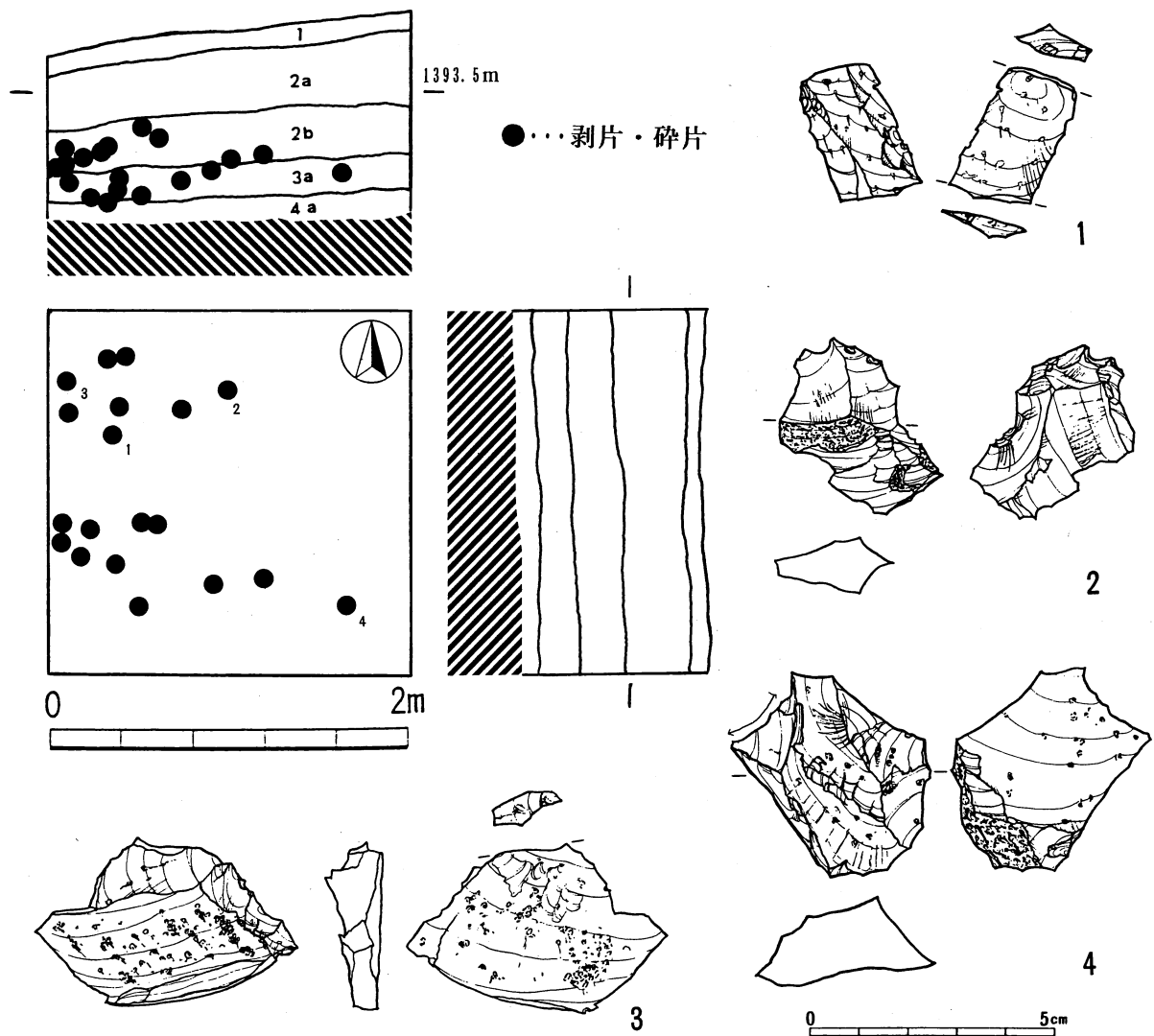
試掘の結果、標高1394m付近に設定したK R E913グリッドのローム層中から、黒耀石製の剥片類が19点発見され、旧石器時代に属する遺跡であることが明らかになり、これをジャコッパラNo.21遺跡として新たに登録した（第5図）。なお、この他の試掘グリッドからは遺物・遺構の発見はなかった。

913グリッドから出土した19点の遺物は、すべて黒耀石製の剥片・碎片類であり、ツールとされるものは含まれていない。遺物の垂直分布は、第6図に示したように基本土層の2 b層から4 a層の上面までで、基本的に3 a層（ソフトローム）が包含層であったとみられる。また第3表に示したように出土した剥片類は、すべて一端が折取られており、折断剥片とされるものである。第6図1～4に主な実測図を掲載した。1がやや縦長剥片の痕跡をとどめているが、他は折取りによって判別付かない部分があるとしても、不定形な幅広の剥片類が多かったものとみられる。剥片類の縁辺には、加工痕や使用痕はほとんど認められず、4の一端に微細な剥離痕がみられるのみである。表面に残されている剥片剥離作業の痕跡からは、打点の安定しない作業の癖がうかがわれる。折断による剥片の処理は、ジャコッパラ遺跡群の各遺跡でもみられるところであるが、本遺跡のものはジャコッパラNo.8遺跡の台形様石器群にみられるものに近似する。

出土した石器類の石材となる黒耀石は、気泡や挟雑物の混入する粗悪なものが多いという特徴がある。母岩別では、接合例はないものの3個体程度に集束するとみられる。



第 5 図 平成 9 年度分布予備調査範囲と遺物出土地点 (KRE 地区)

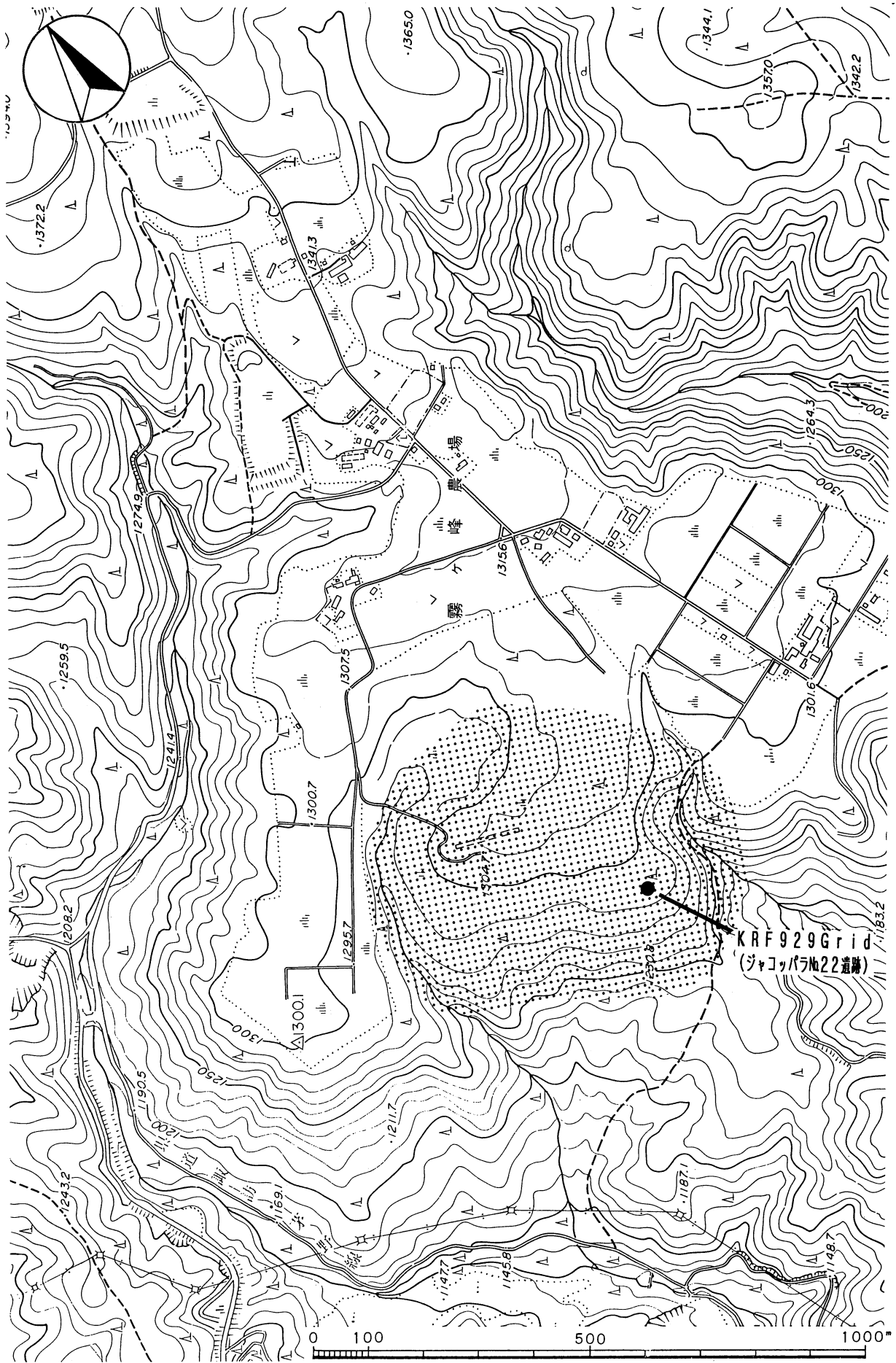


第 6 図 KRE 913 グリッドの遺物出土状況と遺物

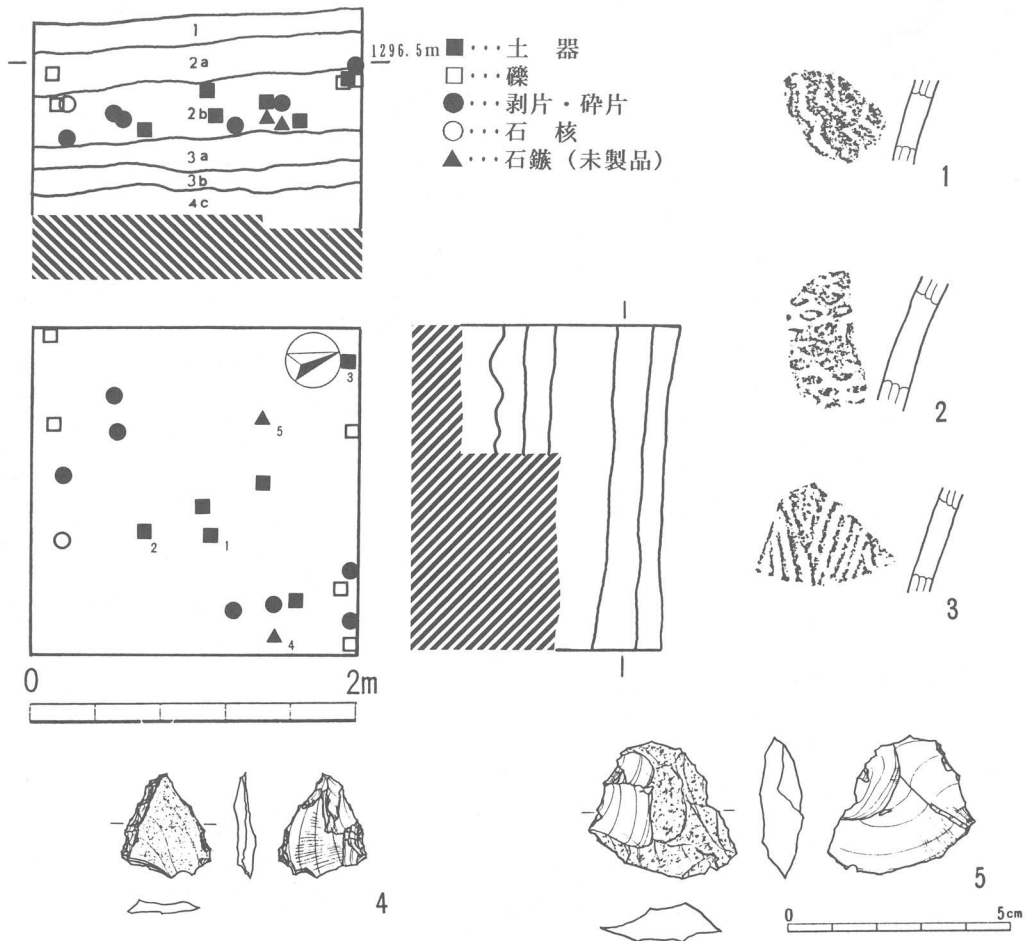
3. KRF 地区の調査

KRF 地区も KRE 地区同様、本年度から調査が始まった地点である。本地区はジャコッパラ遺跡群の展開する霧ヶ峰西南麓で、最も広大な平坦部の展開する地区であり、ジャコッパラの末端部に相当する(第 3 図・第 7 図)。いわば、ジャコッパラ遺跡群の南側からの入口に相当することから、その立地状況を考慮しても、遺跡の存在は確実視されていた。KRF 地区には、大きく見て手指状に広がる 3 つの尾根が含まれ、尾根部の両脇には小河川が形成され、横河川に合流している。今回はそのうち山林部となる中央の尾根部、標高 1295~1310m が調査範囲の対象となった。第 7 図に示した範囲(トーン部)に、2m x 2m を基本とする試掘グリッドを 9 カ所設定し、試掘による遺跡分布の確認を行なった。

試掘調査の結果、尾根上の土層堆積状況は良好であることが認められたが、標高 1296m の KRF 929 グリッドで遺物分布が確認できた以外、遺構・遺物の分布は認められなかった(第 7 図)。929 グリッドでは 2b 層を主要な遺物包含層として、21 点の遺物が見つかった。その内訳は第 3 表に示したとおり、縄文土器片 6 点、黒耀石製石鏃未製品 2 点、黒耀石製石核 1 点、黒耀石製剥片類 7 点、破碎礫・自然礫 5 点である。



第 7 図 平成 9 年度分布予備調査範囲と遺物出土地点 (KRF 地区)



第9図 KRF 9 2 9グリッドの遺物出土状況と遺物

土器片はほとんどが縄文早期に属するものとみられ、このうち文様の判別できるものは第8図に示した。1～3はそれぞれ山形押型文、楕円押型文、綾杉状山形押型文であり、同一個体ではないとみられるが、細久保式に型式比定出来よう。

ツールとして認められる石器類については、第8図4・5に示した黒曜石製石鏃の未製品のみである。4は表面に自然面の残る剥片を折取り、周縁に調整を施すことでおおよその形状が仕上がった段階のもので、裏面側に器体整形として加え始めた平坦剥離が部分的に認められるが、完成品には至っていない。5も表面に自然面の残る厚手の剥片を素材としており、表面と裏面の一部に粗い剥離が施されている。ただし加工状態の程度からでは、スクレイパーとも判断出来ないこともない。なお、裏面にみられる第一次剥離面は、両極技法による剥離面の構成を示している可能性がある。

本グリッドから見つかった礫については、被熱痕跡をとどめるものが多く、出土状況は散漫ではあるが、近傍に炉址的な性格を持つ集石遺構が存在していた可能性が考えられる。

IV 調査のまとめ

1. 検出された遺構・遺物及び遺跡内容について

本年度の調査は、KRE・KRF地区の2地区にわたったが、これらは過去に調査の行なわれなかった地区であった。そして、各地区の調査の結果、それぞれ1カ所ずつの遺跡を発見することが出来た。

KRE地区のKRE913グリッドからは、ローム層より旧石器時代の石器類が発見され、ジャコッバラNo.21遺跡として登録された。ツールは伴わないものの、不定形な剥片類には折断による顕著な折取りの痕跡が認められ、こうした特徴は、石器群の年代的な属性を示すものとして注意される。帰属時期の断定は出来ないが、おおぶりの剥片が含まれることなどを考慮すると、AT降灰以前の石器群に属する可能性が高そうである。また、出土した黒耀石のほとんどは質的にみて、冷山・麦草峠などの八ヶ岳産黒耀石の特徴が認められるようである。理化学的な分析結果を待たねばならないが、霧ヶ峰産黒耀石原産地より倍以上の距離を持つ原産地からの黒耀石が、本遺跡に運び込まれているという事実があるならば、八ヶ岳産の黒耀石を保有しながら、本遺跡を訪れた集団が存在したという仮定も許されようか。黒耀石原産地近傍のジャコッバラ遺跡群の形成過程を解明する上で、本遺跡は今後十分に検討すべき内容を持っているといえよう。

KRF地区では、KRF929グリッドから、縄文早期押型文土器片と石器類が発見され、ジャコッバラNo.22遺跡として登録された。明確な遺構は認められなかったものの、本遺跡の尾根上の土層中にはない、安山岩礫が数点見つかっており、これらには被熱痕跡が認められることから、集石炉が構築されていた可能性が考えられる。押型文土器は当該期後半の細久保式に属するものである。現在までジャコッバラ遺跡群で見ついている押型文期の遺跡は、ほとんどが細久保式期に属するものであり、試掘段階ではあるが、規模的にも本遺跡と同じ程度と推察されるものである。黒耀石を石材とした石器製作の痕跡が認められることは多いが、明らかな未製品の出土例はなく、石鏃などは既製品の欠損品として見つかることが多い。これに対して、本遺跡では石鏃の未製品が見つかっており、この地点で生産を行っていた可能性も考えられる。ジャコッバラ遺跡群における縄文時代各期の遺跡形成は、未だ不明な点が多い。しかし、本遺跡のように、狩猟具である石鏃を生産し、道具立てを行なうような遺跡があるということは、押型文期のジャコッバラ遺跡群の展開を考える上で、なんらかのヒントを与えてくれるものと思われる。縄文時代においてジャコッバラが本格的に開発される時期として、早期押型文土器期は一つのエポックとなることは疑い得ないであろう。

参考引用文献

- 諏訪市教育委員会 1988 『ジャコッバラ』 I
1993 『ジャコッバラ』 II
1994 『ジャコッバラ』 III
1995a 『ジャコッバラ』 IV
1995b 『ジャコッバラ』 V
1996 『ジャコッバラ』 VI
1997a 『ジャコッバラ』 VIII
1997b 『ジャコッバラ』 VII

グリッド名	規 模	水糸標高	備 考	土壌サンプリング
KRE901	2.0×2.0m	1334.0m		
KRE902	2.0×2.0m	1348.5m		○
KRE903	2.0×1.0m	1346.5m		
KRE904	2.0×2.0m	1350.0m		
KRE905	1.0×3.0m	1349.2m		
KRE906	2.0×2.0m	1356.0m		
KRE907	2.0×2.0m	1360.5m		
KRE908	2.0×2.0m	1365.5m		
KRE909	1.0×3.0m	1372.0m		
KRE910	2.0×2.0m	1377.0m		
KRE911	2.0×2.0m	1376.0m		
KRE912	2.0×2.0m	1387.0m		
KRE913	2.0×2.0m	1393.5m	旧石器時代石器類 19	○
KRE914	2.0×2.0m	1397.5m		
KRE915	2.0×2.0m	1403.0m		
KRE916	2.0×2.0m	1407.5m		
KRE917	1.0×3.0m	1408.7m		
KRE918	2.0×2.0m	1417.3m		
KRE919	2.0×2.0m	1425.5m		
KRE920	2.0×2.0m	1347.0m		
KRE921	2.0×2.0m	1345.0m		
KRE922	2.0×2.0m	1338.0m		
KRE923	2.0×2.0m	1324.0m		
KRE924	2.0×2.0m	1325.5m		
KRE925	2.0×2.0m	1325.0m		
KRF926	2.0×2.0m	1304.0m		
KRF927	2.0×2.0m	1301.04m		
KRF928	2.0×2.0m	1303.3m		
KRF929	2.0×2.0m	1296.5m	縄文早期土器片 6、黒曜石製石器類 10、安山岩礫 5	
KRF930	2.0×2.0m	1302.5m		
KRF931	2.0×2.0m	1307.21m		
KRF932	2.0×2.0m	1304.0m		
KRF933	2.0×2.0m	1301.0m		
KRF934	2.0×2.0m	1296.0m		

KRE913グリッド

注記No.	種 別	長さ (Cm)	幅 (Cm)	厚さ (Cm)	重量 (g)	備 考
1	折断剥片 (黒耀石)	3.5	5.5	1.2	15.6	第6図3
2	折断剥片 (")	3.7	2.7	1.3	6.3	
3	碎 片 (")	1.7	1.0	0.7	1.0	
4	碎 片 (")	0.8	0.4	0.1	0.1	
5	碎 片 (")	0.6	0.4	0.2	0.1	
6	折断剥片 (")	3.7	3.3	1.7	8.8	第6図2
7	折断剥片 (")	2.9	2.8	0.9	4.0	第6図1
8	碎 片 (")	1.9	1.7	0.2	0.5	
9	碎 片 (")	1.7	1.1	0.5	1.1	
10	折断剥片 (")	2.4	1.7	0.2	0.8	
11	碎 片 (")	0.9	1.2	0.2	0.1	
12	碎 片 (")	1.1	1.2	0.9	0.5	
13	碎 片 (")	1.1	1.1	0.2	0.2	
14	折断剥片 (")	3.9	3.6	1.1	6.4	
15	碎 片 (")	1.0	1.2	0.2	0.4	
16	折断剥片 (")	4.2	3.9	1.6	18.6	第6図4
17	碎 片 (")	1.9	1.9	0.3	0.8	
18	碎 片 (")	0.9	0.9	0.1	0.1	

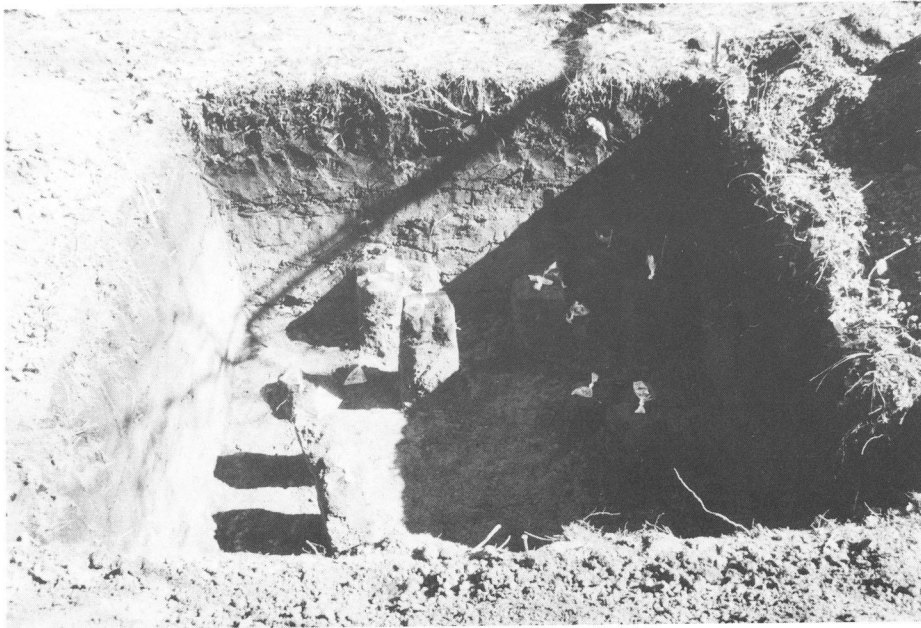
KRF929グリッド

注記No.	種 別	長さ (Cm)	幅 (Cm)	厚さ (Cm)	重量 (g)	備 考
1	碎 片 (黒耀石)	1.0	0.7	0.1	0.1	
2	碎 片 (")	1.0	0.4	0.1	0.1	
3	破碎礫 (安山岩)	—	—	—	224.0	被熱痕跡あり
4	土器片	—	—	—	—	摩滅著しい
5	石鏃未製品 (黒耀石)	2.3	2.0	0.4	1.6	剥片素材 第8図4
6	剥 片 (")	3.2	1.2	0.3	0.8	
7	碎 片 (")	1.3	0.8	0.4	0.2	
8	土器片	—	—	—	—	無文部?
9	土器片	—	—	—	—	楕円押型文?
10	土器片	—	—	—	—	山形押型文 第8図1
11	土器片	—	—	—	—	楕円押型文 第8図2
12	石 核 (黒耀石)	2.0	4.2	1.5	7.7	亜角礫素材
13	破碎礫 (砂 岩)	—	—	—	31.1	
14	土器片	—	—	—	—	山形押型文 (綾杉状) 第8図3
15	石鏃未製品 (黒耀石)	3.1	3.5	1.1	8.6	剥片素材 第8図5
16	碎 片 (")	2.0	1.0	0.4	0.9	ピース-エスキューの一部?
17	碎 片 (")	2.0	1.0	0.2	0.1	
18	破碎礫 (安山岩)	—	—	—	102.2	被熱痕跡あり
19	自然礫 (")	—	—	—	671.4	被熱痕跡あり
20	破碎礫 (")	—	—	—	143.2	
21	碎 片 (黒耀石)	0.6	0.3	0.1	0.1	

第 3 表 出土遺物属性表

報告書抄録

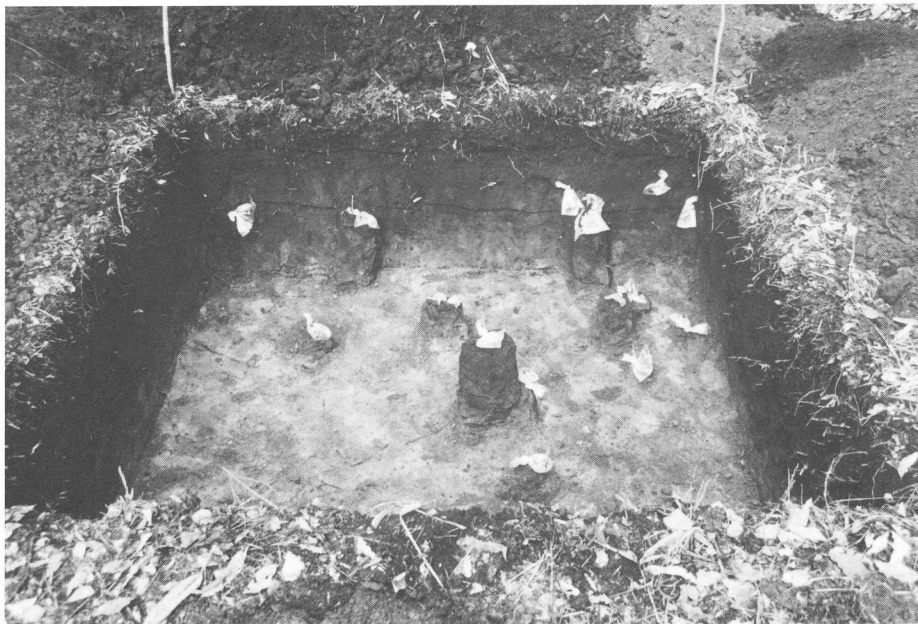
ふりがな	じゃこっぱら9							
書名	ジャコッバラIX							
副書名	平成9年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報 (諏訪市ジャコッバラ遺跡群遺跡分布予備調査6)							
巻次								
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第46集							
編著者名	田中 総							
編集機関	諏訪市教育委員会							
所在地	〒392-0022 長野県諏訪市高島 1-22-30 TEL0266 (52) 4141							
発行年月日	1998年3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ジャコッバラ 遺跡群	<small>すわ</small> 諏訪市 <small>しが</small> 大字 四賀 <small>きりがみね</small> 字 霧ヶ峰	20,206	418他	36° 03' 46"	138° 10' 00"	1997年 10月29日 ～ 1997年 11月27日	試掘坑 34か所	遺跡分布 予備調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ジャコッバラ 遺跡群	キャンプ地跡	旧石器時代 縄文時代	旧石器時代 石器製作址	旧石器時代 黒耀石製石器類 縄文時代 石鏃・黒耀石製石器類 ・早期土器片		新たに2ヶ所の遺跡 を発見 (ジャコッバラNo.21 ～No.22 遺跡)		



1. KRE913グリッド遺物出土状況



2. KRE913グリッド出土遺物



3. KRE929グリッド遺物出土状況



4. KRE929グリッド出土遺物

ジャコッパラ区

— 平成9年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概要 —

平成10年3月24日

編集 諏訪市高島1-22-30
発行 諏訪市教育委員会
印刷 (株)マルジョー上田印刷
